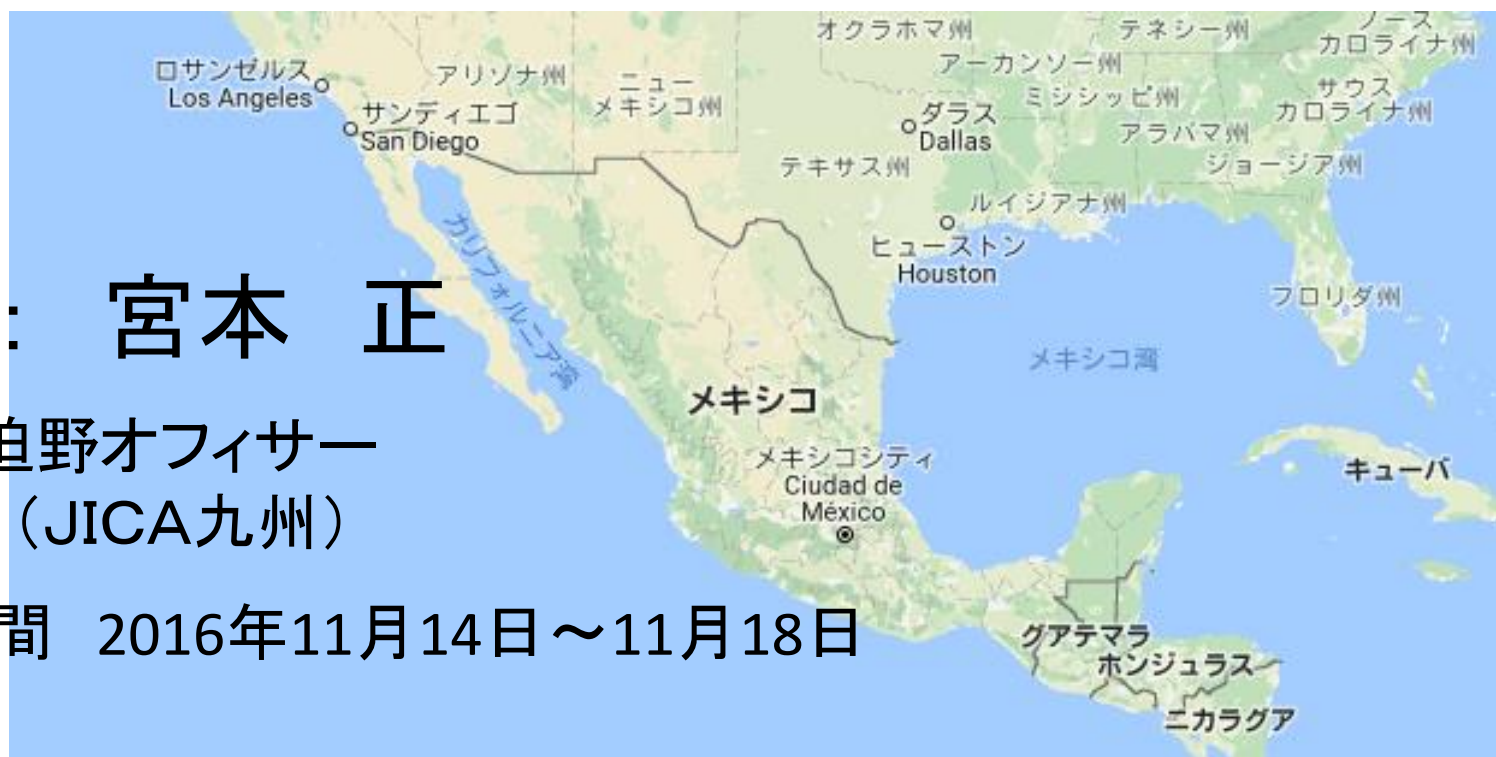


【出張報告】 メキシコ帰国研修員のフォローアップ

報告： 宮本 正

同行： 迫野オフィサー
(JICA九州)

出張期間 2016年11月14日～11月18日



平成28年12月25日

メキシコ産業界の 近況

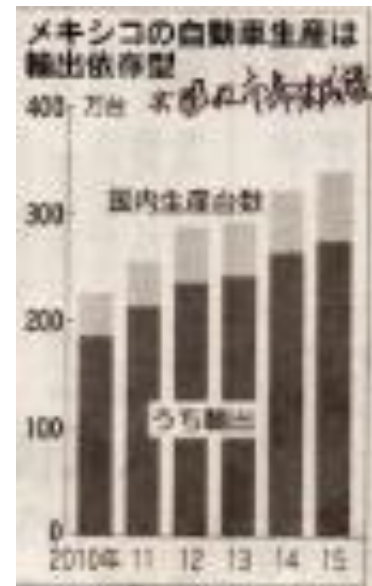
自動車産業の
集積が急ピッチ

マツダと日産自動車はメキシコで世界的な生産・輸出拠点を展開中。自動車部品メーカーもメキシコに集まり、2020年の生産規模は現在の1.5倍に膨らむ見通し。



自動車関連企業のグローバル戦略の拠点となる。

メキシコ拠点 世界へ自動車輸出



マツダ・日産
欧州・中南米に輸出
30年ぶり工場新設
米フォード

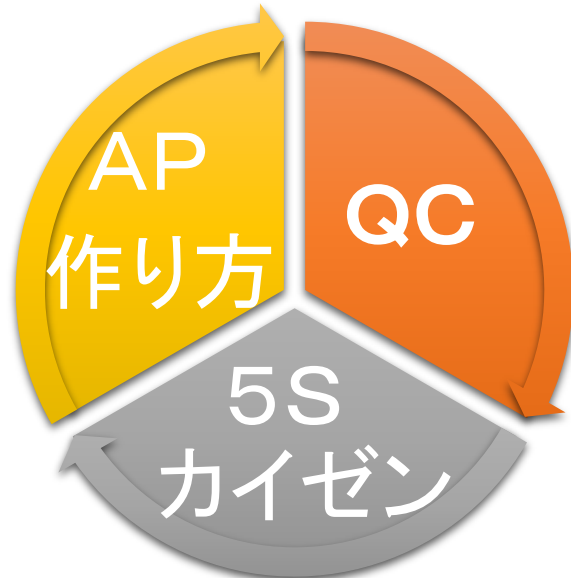
1. 講義(メキシコ現地)

1) 帰国研修員フォローアップ活動の一部として講義を実施

メキシコ国が主催し、JICAが半額負担している「CNC」導入コースに参加していた研修員へ講義(3回目の訓練コース)

参加研修員: 7カ国(16名)

主な講義内容(半日×3日間実施)



CNC:



2) 講義参加者の反応

興味が集まった講義内容

【QC】

- ・日本での発展史
- ・要求品質と適合品質の違い
- ・SMEで出来ること

【5S】

- ・組織運営の基礎要件
- ・基礎の上にカイゼン・マネージメントを積み上げることの重要性

【アクションプラン】

- ・計画が持つ意義・目的
- ・事業発展型・新規企業型の違い
- ・問題と課題の差

実例紹介の有効性



所感

1) 理論の勉強は終了

実践的な教育が要求されている

「計画を作って推進する」方法と具体的な行動を示しての教育が大切

2) アクションプランが好評

《現状》→プロジェクト型の仕組み

エンジニアが設計し、作業者は実行のみで一般層が計画を作ることは皆無

《興味》一般層が自主的に行う「計画を作る」ことや全員参加の行動に大きな興味を示した

講義の最後日に研修員が自国料理を持参しパーティー開催。和気藹々！




2. 帰国研修員の現地活動状況

H27年度：「職業訓練の運営・管理と質的強化(C)」コースに参加した研修員


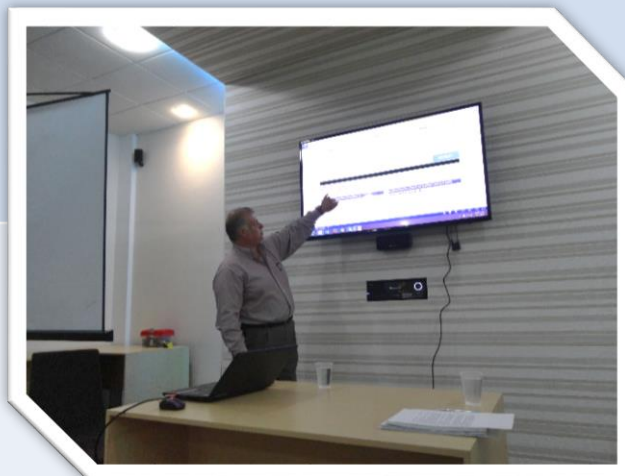


エクターさん

ノルマさん

<p>(I) コース名</p>	<p>H27年度: 「職業訓練の運営・管理と質的強化(C)」</p>	
<p>研修員名</p>	<p>ノルマさん (Ms. TORIZ ALVAREZ Juana Maria Norma)</p>	
<p>現職</p>	<p>訓練庁の産業界連携担当</p>	
<p>状況</p>	<p>《現状》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大幅な組織変更で連携部局が消滅 ・教員の実務経験浅く認識が現実の進行度に追いついていない。 <p>《課題》</p> <ol style="list-style-type: none"> ①産業部門との交流を通じて「訓練すべきテーマ」の特定 ②退学率上昇傾向の歯止め策 ③各部門の実行計画と実績報告 ④各州の地域担当者に計画を作って実行する力が付いていない。 	
<p>所感</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・将来への演繹型の問題解決法 PDCA型組織運営(方針管理) 	

活動報告中のノルマさん

<p>(Ⅱ) コース名</p>	<p>H27年度: 「職業訓練の運営・管理と質的強化(C)」</p>	
<p>研修員名</p>	<p>エクターさん (Mr.MACIAS Juan Hector Hidalgo)</p>	
<p>現職</p>	<p>地方政府の責任者</p>	
<p>状況</p>	<p>《現状》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業界のニーズを聴き取って適合するカリキュラム編成に結び、講義教師の評価を行っている。 ・「一歩ずつ」を重視 ・評価制度を作って動き始めている。 	
<p>所感</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習ったことの実用化は進んでいる。 ・評価は次の改善に繋がらないと意味がないばかりでなく、評価対象者の忌避を招く。 	

活動報告中のエクターさん

<p>(Ⅲ) コース名</p>	<p>H23 年度: 「中南米地域生産性向上活動普及(ボランティア連携)(A)」</p>	
<p>研修員名</p>	<p>アレックスさん (Mr. BUTRÓN GUILLEN Jorge Alejandro)</p>	
<p>現職</p>	<p>職業訓練校教師の再教育学校の校長</p>	
<p>状況</p>	<p>《現状》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育」の4Mである教師の再教育や教材開発を積極的に展開中 ・不良品の原因解析と対策に取込み ・連携業界の拡大を構想中 	
<p>《所感》</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現実問題への対応は進んでいる。 ・産業界と行政府連動の中期組織経営計画の推進方策 ・KPI管理と自主管理の連携 	 <p>活動報告中のアレックスさん</p>

3. 地域学校の訪問

アグアスカリエンテス州



近年の日系企業進出で工業化が進展し教育にも注力。日系企業120社が進出済で日本人学校も設立されている。

(1) 公立職業訓練校(高校レベル)

=よく整備されている=

概要



15～17歳(3年制)
 進学率 85%
 機械装置・建築教育・PC等必要備品は揃っているが、数量不足。
 退学防止として奨学金制度あり

所感

中途退学が多いようで教育システムの改善が必須。

外観



(2)	公立職業訓練大学 =よく整備されている=	(3)	アグアスカリエンテス工科大学 =広大な敷地で整備充分=
概要	全国に60校 就職率 90% 産学連携; 競争環境重視 教授の1/3は産業界から 産学共同研究従事	概要	工科大は全国に115校 学生数 4,500人 卒業生の7-8割は2年で実務型技術者 実務演習は日産と提携
所感	日本の実情も良く理解しており、 活かせるところは積極的に導入し ている。幹部層の教育に重点を 置いている。	所感	Takeoff段階にあり先進企業への追随 は必然。天然資源にも恵まれており、 それらを基盤に独自の産業を形成して いくことになる。
外観		外観	

4. 地域企業の訪問

アグアスカリエンテス州



近年の日系企業進出で工業化が進展し教育にも注力。日系企業120社が進出済で日本人学校も設立されている。

(1)

JATCO

(日産車用:変速機他の部品製造企業)スクール

概要

訓練生2割＋大学生8割
上級学校に進学後、企業に舞い戻って再就職もある。

所感

問題解決の進め方が「QC Story=デミングサイクル」を採用しQCC活動の在り様を導入しており興味深かった。

外観



2016/11/16

(2)	日産・第2工場(1~3工場が稼働) =研修員同行=	(3)	安川電器; ロボット展示場 =研修員同行=
-----	------------------------------	-----	--------------------------

概要	<p>大型プレスはIHI製で5,400トンの5段順送型。段取り換えは90秒と誇っていた。</p> <p>日本の生産性(Pitch Time)が目標となっていたが、余剰人員が目立った。</p>	概要	<p>日系企業の進出も当州では120社と多い。各種ロボットの実機見学と用途・概要についてメキシコ人従業員からプレゼンが行われた。</p>
----	---	----	--

所感	<p>QCC活動を通じて「計画性をもって推進」</p> <p>「下意上達」への文化の伝承者にもなって欲しい。</p>	所感	<p>人件費節減のための道具から高品質生産の道具に変わってきた。良いMan/Machine System 構築の「考え方」の普及へ。機械が人を駆逐する事態は“過ち”で永続性を失う。</p>
----	--	----	--



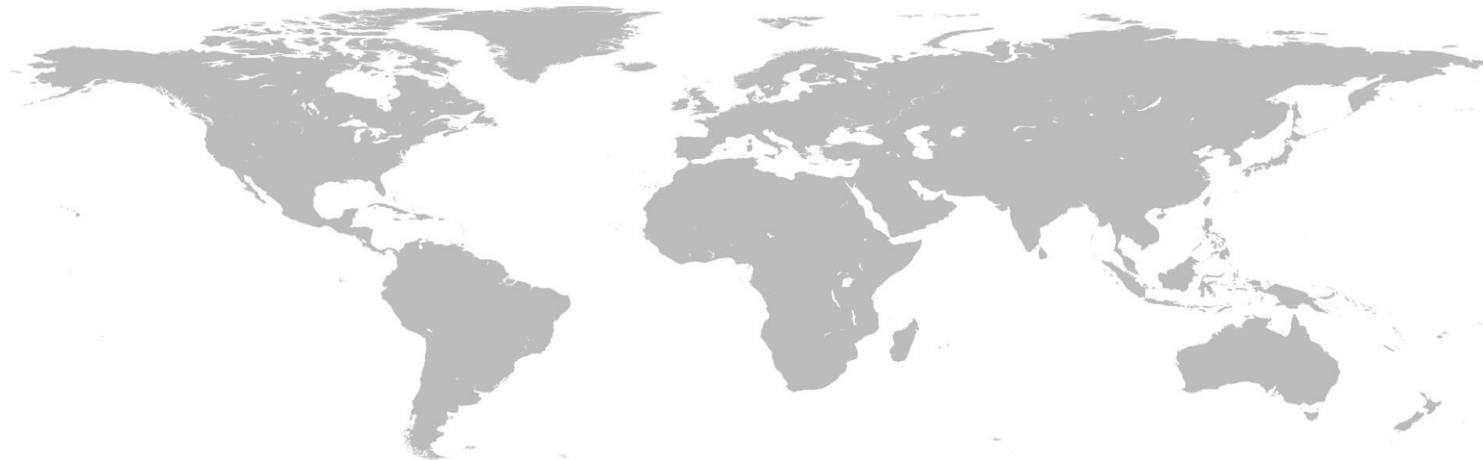
5. 総括

- ・情報系・物流系の進展でフラット化※1が、愈々進み、連れて変化のスピードと幅は加速・拡大している。当然、理論よりも現実対処策が一層求められるが、スジを違えて進むと引き返しが出来ない事態に陥る恐れがある。

フラット化※1

世界中の距離が殆どなくなり、何時でも何処でも世界中の国々との会話等ができるような社会。

- ・「当面の対処策」と「本質改善策」の両者が求められる事態は増々深刻になる。
- ・今後の研修事業に求められるモノを再確認した小旅行でした。



写真集：ダイジェスト版



